

令和元年度 鏡山小学校 校内研究概要

1 研究主題

主体的にいきいきと学ぶ児童の育成 ～的確に読み取る力の育成～

2 今年度の研究について

本校では、今年度「主体的にいきいきと学ぶ児童の育成 ～的確に読み取る力の育成～」という研究主題を掲げ、校内研究を進めていく。

校内研究の目的としては、以下の4つを挙げることができる。

- (1) 学校教育が求められていることやその実現のためにすべきことに関する知識の獲得
- (2) 実際の授業に関する協議を通じた授業者や参観者の授業力向上
- (3) 授業づくりの法則性（コツ）の解明
- (4) (1)から(3)を通じた本校児童の育成

これらの目的に迫るために、本校では平成29年度より唐津市学力向上の研究指定を受け、これまでの研究の成果に加え、新学習指導要領で求めるこれからの時代に生きる子どもの力を育むために、「主体的・対話的で深い学び」を踏まえた研究を行ってきた。研究の成果として、学びの目的、学びの意義・意味、学びの方法、学びの位置、学びの獲得を児童自身が自覚することを通して、児童の学びに対する興味、関心の高まりがみられた。それに伴い児童の学習に対する自己有能感も高まっていったが、学習状況調査等で見られる学力については、自己有能感の高まりほどの伸びは見られなかった。児童の意識と実態のずれが生じている要因としては、学習状況調査の誤答分析から、以下の3つが考えられる。

- (1) 題意や文章の意図を解釈するという「全体を捉える力」に課題があること
- (2) 要点が何かをつかむ「詳細に捉える力」に課題があること
- (3) (1)、(2)により、問われていることを理解することに困難さを感じている児童が多くいること

(1)から(3)より、児童の読み取る力に課題があると考えた。

本校の学校教育目標は「自ら考え行動し、いきいきと学ぶ児童の育成」であり、目指す児童像として以下の3点を掲げている。

- ・(か) 考える子 …… 自ら考え、楽しんで学習する子ども
- ・(が) がんばる子 …… 一生懸命がんばる子ども
- ・(み) みとめあう子 …… 認め合い、協力する子ども

つまり、児童が学習を自分事としてとらえ、自他の長所・短所を受け入れたうえでの双方向性の交流を行い、困難場面においても粘り強く学習を継続していくことを通して、できるようになった自分を肯定的に捉えることが大切であると考えた。

本校では、先に述べた唐津市学力向上の研究指定及び唐津市学力向上アクションプランを通じて、次の3点を中心に授業力向上に努めてきた。

- (1) 児童が主体的に学習に取り組むことができるような授業をデザインすること
- (2) 児童が考えを広げ深めていくことができるような対話的な活動を工夫すること
- (3) 児童が自ら学ぶことを支援ができるような環境を整えること

これらの取り組みを通して、児童の考えを起点に学習を進めるための授業づくりの在り方、児童が自身の考えを深化させるような交流の在り方について、考えを深めることができた。半面、児童が自ら情報を求めたり整理したりして活動を広げていくような授業の在り方については、授業改善の余地を残した。

以上のことから、研究主題を「主体的にいきいきと学ぶ児童の育成 ～的確に読み取る力の育成～」とした。
また、主題に迫るために、以下の3点を中心に取り組んでいく。

- (1) 「全体を捉える力」と「詳細に捉える力」に焦点を当て、読み取る力の育成を図る。
- (2) 昨年度の成果である児童の考えを起点に学習を進め、児童が自身の考えを深化させるような交流の場を設定することは、継続して取り組む。
- (3) 「考えを広げたり整理したりするツール」「他者から情報を得ることができるようなツール」「情報をよりよく捉えるためのツール」「情報を得ることを楽しむことができるツール」の開発に取り組む。

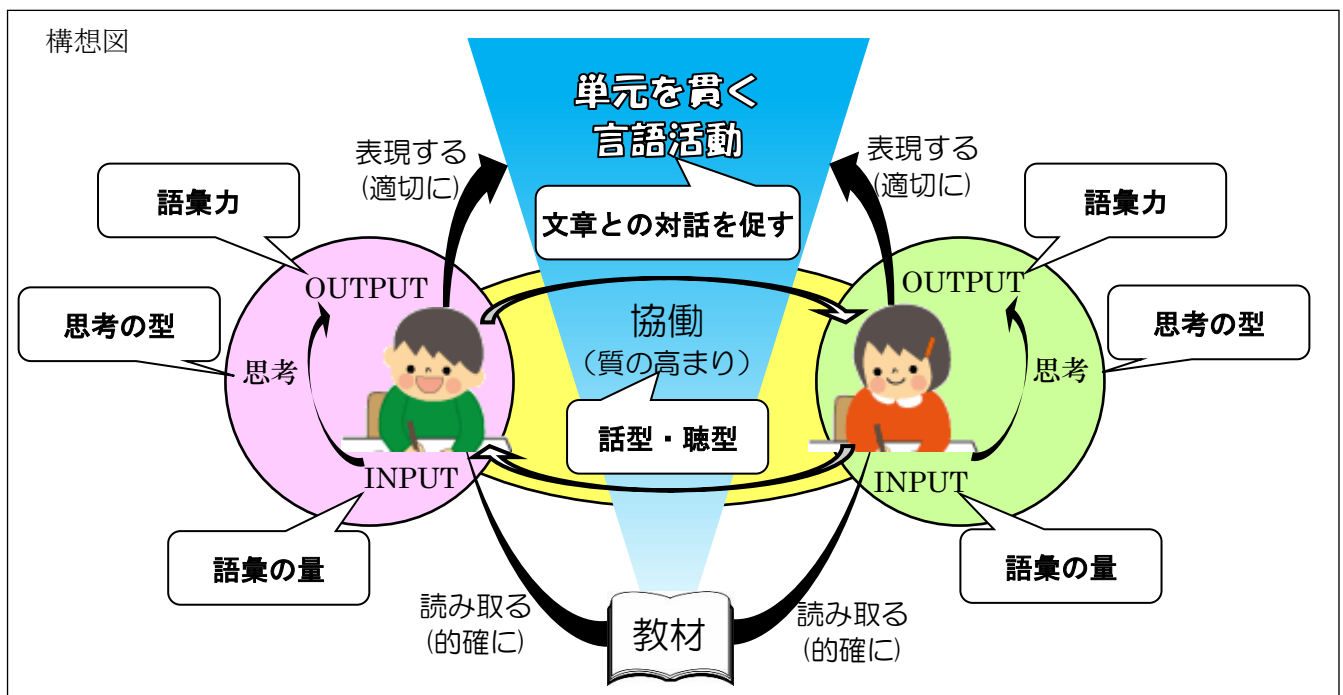
3 研究の目標

国語の「読むこと」の内容において、的確に読み取る力を育成するために、児童は地震の考えを起点に考えを深化していくような学習活動の在り方を探る。

4 研究の仮説

国語の「読むこと」の内容において、文章と対話するような言語活動を取り入れれば、的確に読み取る力が育成されるであろう。

5 研究の構想



本研究では、文章と対話するような言語活動を通して的確に読み取る力を育成することを考えた。昨年度までの研究で、単元を通じた活動に取り組んできたことを踏まえ、今年度の国語科では、単元を貫く言語活動を設定するようにしている。単元の導入場面で、単元末に行う言語活動について知り、どのようなことを学ぶ必要があるかを考え、どのように表現するかを考えるようにすれば、児童の中に単元を通じて教材を読み取る必然性が生じる。各単元における言語活動は、まず児童がその言語活動に期待を持ったり楽しみにしたりするものであると同時に、各学年で設定されている指導事項、更には扱う教材の特性という3つのことを鑑みて設定することが求められる。

また、単元末に言語活動を通じて学んだことを表現するためには、次のことがなされる必要がある。まずは教材から情報を読み取る際には、そこに書かれている言葉の意味を理解できること、つまり語彙の量が求められる。次に、読み取った情報は適切に処理できること、つまり多様な思考の型を持っていることが求められる。

最後に、自分が考えたことを正しく言葉を使いこなす表現すること、つまり語彙力が求められる。更には、これらの活動の質を高めるためには、児童の協働的な学びの場が求められるが、そのためには相手にきちんと考えを述べ、相手の考えをきちんと受け取ること、つまり話型・聴型を弾力的に用いることが求められる。そこで、これらのことに必要なコンテンツ作りを専門部で行い、昨年度から引き継いだ学びのファイルを充実させるようにした。

これらの構想に基づき、教材の特性や学年の指導事項に応じた言語活動の在り方を探ることとした。

6 研究計画

(1) 具体的な取り組み内容

- ① 新学習指導要領における、国語で育成を目指す資質・能力や「読むこと」の内実について理解を深める。
 - ア 研究推進委員会並びに校内研修を通して、新学習指導要領の理念を学ぶ。
 - イ 講師を招聘し、先進的な取組や実践事例を知る。
- ② 各学年で、「全体を捉える力」と「詳細に捉える力」に焦点を当て、読み取る力が育成される授業の在り方を探る。
 - ア 各学年で読み取る力が育成される授業の型を作り、年間を通して取り組む。
 - イ 児童のノートやワークの記述、単元末テストの結果等から、授業の型を修正していく。
- ③ 的確に読み取る力の育成のために必要な学習過程とそれぞれの場面で教師が果たす役割を確立する。
 - ア 上学年、下学年からそれぞれ各学年で作った型を全校に向けて提案し、全体で分析する。
 - イ アを行わなかった学年については、上・下学年に向けて提案し、各学年グループで分析する。
 - ウ ア、イを通じて確立したものを、各学年でまとめ、報告する。
- ④ ①から③までの取り組みを分析・評価し、成果と課題を見出す。
 - ア ③ウの報告を全体で交流し、今後に生かしたい成果、今後取り組むべき課題を整理する。
 - イ 1年間の研究の過程を、研究冊子としてまとめる。

(2) 仮説の検証方法

- ① アンケートの実施・分析
- ② 授業におけるワークシート・ノートの記述分析
- ③ 研究授業・授業研究会における授業観察・意見交換
- ④ 全国学力・学習状況調査及び佐賀県学習状況調査、標準テストの実施・分析

(3) 研究組織

研究推進委員会 校長，教頭，主幹教諭，指導教諭，研究部				
	思考ツール担当	話型・聴型担当	語彙指導担当	読書指導担当
高学年部	下平・○杉原	野上・松野	○北村・坂口卓	白水・吉田
中学年部	伊藤・松本	山口・○杵島・○納所	堀川・筒井	金尾・井本
低学年部	○川原・原・○坂口恭	森下・北川健・○力武	久保・浦田・岩田	中島成・山下
のびのび部	松尾・諸石	○仁部	井関・前田美	吉田・前田佐
級外部	田久保	江藤	北川綱	井上・○坂元

○は，研究部員

思考ツール担当…「的確に読み取る」ことに役立つ思考ツールの提案・検討（情報の拡散・整理）

話型・聴型担当…「的確に読み取る」ことに役立つ話型・聴型の提案・検討（情報の獲得）

語彙指導担当……「的確に読み取る」ために必要な語彙の提案・検討

読書指導担当……「的確に読み取る」ことへの興味・関心を引き出す読書スタイルの提案・検討

7 実際の取組

(1) 研究授業及び授業研究会について

ア 授業の見せ合いを活用した提案授業の実施

今年度は，校舎建替えに伴う業務等を鑑みて，全職員参加の研究授業を例年の3本から2本にした。しかし，それでは今年度の研究の方向性を具体的にイメージしづらい。そこで，授業力向上のための取組の1つである授業の見せ合いを活用し，研究の視点を取り入れた授業を公開するようにした。

イ 各学年による研究授業及び授業研究会の実施

以下の計画で，研究授業及び授業研究会を実施する。

1年	10月9日 3時間目	全校研 講師：峰茂樹先生
2年	9月26日	グループ研
3年	10月下旬	グループ研
4年	11月上旬	グループ研
5年	11月20日 5時間目	全校研 講師：浦元教育センター係長
6年	11月中旬	グループ研

ウ 今年度の実践を各学年で分析，研究のまとめとして報告する。

(2) 専門部の活動について

8月から9月にかけて，2度の全体会を設定し，目的，流れ，活動内容を確認した。作業は，各担当で適宜集まり行った。

ア 思考ツール担当

コンセプトマップやフィッシュボーンなどの思考ツールについて，その使い方や使う場面などを考え資料を作成した。

イ 話型・聴型担当

過去に各学年グループごとに作成されていた話型・聴型を集約したりよりよく修正したりして，今年度の最新版として整理した。

ウ 語彙指導担当

